

「見直し内容」を踏まえた原子力研究開発機構の次期中期目標の検討の状況

平成22年2月2日
原子力研究開発課

1. 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

1. エネルギーの安定供給と地球温暖化対策への貢献を目指した原子力システムの大規模プロジェクト研究開発
 - ・「もんじゅ」については平成24年頃の本格運転開始、その後所期の目標の達成を目指す。
 - ・高速増殖炉サイクル実用化研究開発については、平成22年度に革新技术の採否判断を行い、これを踏まえて必要に応じ研究開発計画を見直す。
 - ・高速増殖炉研究開発に係る研究成果等は、国民にわかりやすい形で公表。
 - ・プロジェクトマネジメントの強化を追加。
2. 量子ビームによる科学技術の競争力向上と産業利用に貢献する研究開発
3. エネルギー利用に係る技術の高度化と共通的科学技術基盤の形成
4. 原子力の研究、開発及び利用の安全の確保と核不拡散に関する政策に貢献するための活動
5. 自らの原子力施設の廃止措置及び放射性廃棄物の処理処分に係る技術開発
6. 放射性廃棄物の埋設処分
7. 産学官との連携の強化と社会からの要請に対応するための活動
 - ・利用ニーズが高い施設・設備の外部利用を一層促進する。
 - ・展示施設の機能を含め、アクションプランを見直し、前期以上の利用効率等の向上を図る。

2. 業務運営の効率化に関する事項

1. 効率的、効果的なマネジメント体制の確立
 - ・理事長によるPDCAサイクルに基づく全体を俯瞰した戦略的な経営を支える経営企画機能を強化。
 - ・事故等による計画の遅延を防ぐためのリスク管理及び研究の進展等に応じて柔軟に対応できるよう、マネジメントを強化。
 - ・人材と知識を適切に維持、継承するため、PDCAサイクルと一体的に行う。
 - ・機構内外との人事交流促進等により、優秀なマネージャーの育成に資するキャリアパスを設定。
2. 業務の合理化、効率化
 - ・分室の在り方について抜本的に見直す。
 - ・核不拡散等の真にやむを得ないものを除き、原則として一般競争入札等とする。また、競争性、透明性が確保されているか、厳正に点検・検証を行う。
3. 評価による業務の効率的推進

3. その他

- ・引き続き、機能が類似又は重複する施設等の機能集約等に努める。
- ・業務遂行に必要な施設等について、重点的かつ効率的に更新及び整備を実施